

和歌山縣報

第六百九十五號

大正八年十一月四日
火曜日

○縣令

○和歌山縣令第七四號

明治四十四年一月縣令第四號原動機取締規則左ノ通改正ス

大正八年十一月四日

和歌山縣知事 池松時和

原動機取締規則

- 第一條 本則ニ於テ原動機ト稱スルハ汽罐、汽機、石油發動機、瓦斯發動機及電動機ヲ謂フ但シ最大汽壓五磅以下ノ汽罐及一馬力未満ノ電動機ニ對シテハ本則ノ規定ヲ適用セス
- 第二條 本則ニ依リ知事ニ差出ス願届ハ事業地所轄警察官署ヲ經由スヘシ
- 第三條 未成年者又ハ禁治產者ノ爲ス願届ハ其ノ法定代理人ノ連署ヲ要ス
- 第四條 原動機ヲ設置セムトスル者ハ其ノ定着ニ係ル場合ハ左ノ各號ノ事項可搬ニ係ル場合ハ第一號乃至四號ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ其ノ第二號乃至第十二號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

製造所取締規則第一條ニ該當スル事業ニ關シ本條ノ規定ト重複スル事項ニ付テハ各別ニ具スルヲ

要

一、設置者ノ住所、職業、氏名及生年月但シ法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所々在地及代表者ノ氏名

二、原動機ノ種類及其ノ調書

三、事業ノ種類

四、設置ノ場所

五、事業上必要ナル建物ノ位置、坪數及其ノ周圍六十間内ノ地形並住家其ノ他ノ建物トノ距離ヲ示シタル平面圖

六、事業上必要ナル建物ノ構造書及其ノ縮尺平面、側面断面圖

七、機械ノ種類、箇所及配置圖

八、原動機運轉時間ノ終始

九、音響震動又ハ有害瓦斯若ハ汚水、汚物、塵芥等ヲ生スルモノニ在リテハ其ノ除害方法

十、避雷裝置、(但シ規模ノ小ナルモノニ對シテハ省畧ヲ認ムルコトアルヘシ)

十一、基礎工事ノ仕様書

十二、工事落成期日

第五條 前條第二號ノ原動機調書ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

汽鐘ニ在リテハ

一、汽鐘ノ種類及個數

二、汽鐘ノ寸法

三、鐘板ノ種類、厚サ及接合方法

- 四、支柱ノ種類及箇數
- 五、最近水壓試驗ノ年月日及其ノ成績
- 六、最大汽壓並常用汽壓
- 七、火床ノ面積
- 八、安全弁ノ種類、寸法及箇數
- 九、製作所名及製作年月日並履歴
- 十、燃料ノ種類並一時間ノ消費高
汽機ニ在リテハ
- 一、汽機ノ種類及箇數
- 二、汽筒ノ寸法
- 三、衝程ノ寸法
- 四、回轉數
- 五、公稱馬力、實馬力
- 六、整速器又ハ凝縮器アルモノハ其ノ種類
- 七、主汽管ノ材質太サ及厚サ
- 八、石抽發動機、瓦斯發動機ニ在リテハ
- 一、發動機ノ種類及其ノ箇數
- 二、汽筒ノ直徑
- 三、衝程ノ長サ

四、回轉數

五、實効馬力

六、一時間ニ於ケル燃料ノ消費見積高

七、排氣管及排氣槽ノ種類、寸法、形狀

八、製作所名及製作年月日
不明ノモノハ其ノ沿革

電動機ニ在リテハ

一、電動機ノ種類 交流直流ノ別及型式 箇數

二、馬力數又ハ「ワット」數

三、回轉數

四、電壓

五、附屬機械器具並結線圖

六、他ヨリ電力ヲ供給ヲ受ケルモノハ其ノ供給者名

七、製作所名及製作年月日

第六條 煙突ノ構造ハ左ノ規定ニ據ルヘシ

一、材料ハ煉瓦、鉄筋コンクリート又ハ鉄板ニ限ル

二、高サハ六十尺以上トス

三、避雷針ヲ設置スヘシ

四、位置ハ最近人家及汽罐ニ對シ其ノ高サノ三分ノ一以上ノ距離ヲ保タシムヘシ

土地ノ狀況又ハ汽罐ノ種類ニ依リ前項ノ制限ヲ輕減シ特ニ許可スルコトアルヘシ

第七條 原動機ハ左記各號ノ距離ヲ有スル場所ニ非サレハ之ヲ設置スルコトヲ得ス但シ事業上必要ナル建物ノ構造設備、原動機又ハ土地ノ狀況等ニ依リ更ニ其ノ増加ヲ命ジ又ハ特ニ許可スルコトアルヘシ

一、汽罐、汽機ハ火藥、石油其ノ他爆發性ノ物品ヲ製造シ又ハ貯藏スル場所、官公署、學校、病院、社寺其ノ他公衆會同ノ用ニ供スル建物(臨時ノモノヲ除ク)及公園ニハ六十間以上其ノ他ノ原動機ニ在リテハ三十間以上

二、汽罐、汽機ハ他人ノ住家ハ三十間以上其ノ他ノ原動機ニ在リテハ十間以上

第八條 原動機設置工場ニハ建物又ハ事業ノ種類ニ應ジ適當ナル消火及防火ノ設備ヲ爲スルコトヲ得

電動機ニ在リテハ電流計及信號燈ヲ裝置スヘシ

第九條 石油發動機設置室ニハ一日ノ消費量ヲ超ユル石油ヲ置クコトヲ得ス

第十條 事業上必要ナル建物ノ新築、改築又ハ大修繕ヲ竣リタルトキハ使用前所轄警察官署ニ届出スヘシ

第十一條 知事又ハ警察官署ハ危害豫防上必要アリト認ムルトキハ一時原動機ノ使用ヲ制限若ハ停止シ又ハ特別ノ設備ヲ命スルコトアルヘシ

第十二條 汽罐、汽機其ノ他特ニ取扱主任ヲ定ムヘキコトヲ命シタル原動機ハ取扱主任者ニ非サレハ之ヲ取扱ヒ又ハ取扱ハシムルコトヲ得ス

第十三條 原動機ノ検査證又ハ假検査証ヲ受クルトキハ見易キ場所ニ之ヲ掲クヘシ但シ可搬モノニ在リテハ取扱者之ヲ携帯スヘシ

第十四條 汽罐、汽機ハ毎年一回知事ノ指定シタル期日ニ於テ検査ヲ受クヘシ但シ必要アルトキハ臨時検査スルコトアルヘシ

汽罐、汽機以外ノ原動機ハ必要アリト認メタル場合ニ検査ヲ行フモノトス

第十五條 検査ニ合格セサル原動機ハ使用スルコトヲ得ス

第十六條 検査ノ際ハ事業者又ハ其ノ代理人及原動機取扱主任者之ニ立會フヘシ

第十七條 汽罐、汽機ノ検査期日ヲ定メラレタルトキハ其ノ前日迄ニ検査上必要ナル準備ヲ爲スヘシ

第十八條 検査ノ際ハ検査官吏ノ指示ニ從フ外検査上必要ナル措置ニ對シテハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

検査ニ依リ生シタル費用及損害ハ事業者ノ負擔トス

第十九條 汽罐、汽機ノ臨時検査ヲ受ケムトスル者ハ其ノ事由ヲ詳具シ知事ニ願出ツヘシ

第二十條 原動機取扱主任者ヲ定メ又ハ變更セムトスルトキハ其ノ住所、氏名、生年月及履歷ヲ具

知事ニ届出認可ヲ受クヘシ

第二十一條 原動機取扱主任者ハ汽罐、汽機ニ在リテハ相當機關士ノ免狀ヲ有スル者又ハ二年以上

實地取扱ニ從事シタル經歷アル者其ノ他ノ原動機ニ在リテハ六月以上ノ經歷ヲ有スル者タルコト

ヲ要ス但シ知事ニ於テ適任ト認メタル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ取扱主任者ニ對シテハ必要ト認ムル場合ニ於テ試験ヲ行フコトアルヘシ

第二十二條 原動機取扱主任者ニシテ不適當ト認ムルトキハ其ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第二十三條 汽罐ハ常用汽壓ヲ超過シテ使用スルコトヲ得ス

汽罐ニハ二箇以上ノ安全弁ヲ裝置スヘシ

第二十四條 安全弁及水準器ハ取扱主任者ニ於テ毎日運轉前必ス之カ検査ヲ爲シ其ノ異狀ナキヲ確

ムヘシ

第二十五條 安全弁水準器、氣壓計等ニ對シ其ノ効力ニ異動ヲ來スヘキ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條 汽機、汽機ニ異狀ヲ生シタルトキハ直ニ之カ運轉ヲ停止シ其ノ日時原因及狀況等ヲ具

シ速ニ知事ニ届出検査ヲ受クヘシ

第二十七條 原動機ハ左ノ區別ニ依リ掃除スヘシ

一、汽機、汽機ハ三箇月ニ一回以上

二、石油發動機、瓦斯發動機及電動機ハ毎月二回以上

三、煙突ハ毎月一回以上 但シ高サ百尺以上ノモノハ所轄警察官署

第二十八條 他人カ許可ヲ受ケタル原動機ヲ其ノ儘讓受ケ又ハ借受ケ使用スル者ハ七日以内ニ双方

連署ノ上知事ニ届出検査證ノ書換ヲ受クヘシ

第二十九條 家督相續ニ依リ事業ヲ繼承シ其ノ原動機ヲ使用スル者ハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以

内ニ知事ニ届出検査證ノ書換ヲ受クヘシ

第三十條 左ニ掲タル場合ニ於テハ十日以内ニ知事ニ届出ツヘシ但シ第三號ノ場合ハ検査證ヲ返納

シ第四號ノ場合ハ之カ書換又ハ再下付ヲ受クヘシ

一、事業ヲ開始、廢止、休止シタルトキ

二、第四條第一號ノ事項ヲ變更シタルトキ

三、原動機ノ使用ヲ廢止シタルトキ

四、検査証を亡失、毀損し又ハ其ノ記載事項ニ異動ヲ生シタルトキ

事業者死由又ハ所在不明トナリタルトキハ戸籍法ニ依ル届出義務者又ハ家族ハ前項ニ依リ之ヲ

届出スルハ罰金ニ處ス

第三十條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ許可ヲ取消シ又ハ原動機ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

一、定期日迄ニ工事ヲ落成セザルトキ

二、故チ去ル一年以上事業ヲ休止シタルトキ

三、許可又ハ検査ヲ受ケルニ際シ不正ノ手段ヲ用ヒタルトキ

四、本則若シ本則ニ悞テ命令ニ違反シ又ハ公安ヲ害スルノ虞アリト認メタルトキ

五、他人ニ名義ヲ假スル事實アリト認メタルトキ

前項ノ取リ許可ヲ取消サレタル場合ハ五日以内ニ検査証ヲ返納スヘシ

第三十二條 汽壓十磅以上ヲ使用スル蒸氣ニ對シテハ本則ノ規定ヲ準用ス

第三十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一、第四條第十二條第十五條第十八條、第二十三條又ハ第二十五條ニ違反シタル者

二、第十一條若シ第二十二條ノ命ニ從ハサル者又ハ第十四條ノ検査ヲ拒ミタル者

三、第三十一條第一項ニ依ル使用停止ノ命ニ從ハサル者

第三十四條 第八條第九條第十七條第二十條第二十六條乃至第二十九條ニ違反シタル者ハ科料ニ處

第三十五條 第十條第十三條第十六條第三十條又ハ第三十一條第二項ニ違反シタル者ハ十圓未満ノ

科料ニ處ス

第三十六條 事業者カ十四未満ノ者又ハ禁治産者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ適用ス

第三十七條 事業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者雇人其ノ他ノ従業者カ本則ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テタル故ヲ以テ其ノ處罰ニ免ルルコトヲ得ス

第三十八條 法人ノ代表者其ノ他ノ従業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違反シタルトキハ其ノ罰則ヲ法人ニ適用ス法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第三十九條 本則ニ規定シタル違反行為ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

附 則

第四十條 本則ハ大正九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四十一條 本則施行ノ際現ニ設置シタル汽罐、汽機、石油發動機及瓦斯發動機ニ限リ本則ニ依ル設置ノ許可ヲ得且ツ検査ニ合格シタルモノト看做ス電動機ニシテ第四條第一號乃至第四號ノ事項ヲ爾後十日以内ニ届出テタルモノ亦同シ

第四十二條 本則施行前届出タル原動機取扱主任者ニシテ現ニ其ノ業務ニ従事スル者ニ限リ本則ニ依リ認可シタルモノト看做ス

○和歌山縣令第七五號

明治二十八年四月縣令第十號製造所取締規則左ノ通改正ス

大正八年十一月四日

大正八年十一月四日

和歌山縣知事 池松時和

製造所取替規則

第一條 本則ニ於テ製造所ト稱スル左ニ掲クルモノヲ謂フ

一、汽機、汽機、石油發動機、瓦斯發動機又ハ電動機ヲ使用スル紡績、製綿、製絲、捻絲、織物

工場、鉄工場及礦石、硝子屑、石綿粉碎工場

二、金屬精鍊、製鐵、製鋼及諸雜物工場

三、鑄工場及澆冶工場（職工五人未満ノモノヲ除ク）

四、セメント、石灰、骸炭、炭化石灰製造工場

五、煉瓦、レトロ、陶磁器（職工五人未満ノモノヲ除ク）硝子、珪瑯、瓦、土管類ノ製造工場

六、油類、脂肪及樹脂ノ採取（溶劑ヲ用ヒサヘモノヲ除ク）精製工場

七、顏料、塗料ノ製造工場

八、危害ヲ生スル處アル理化學工業用、醫藥用ノ藥品並染料ノ製造及此等ノ藥品ヲ使用スル工場

九、製革及膠製造工場

十、肥料製造及獸類並魚類ノ筋骨化製工場

十一、礦物製練工場（鑛業法ニ依ルモノヲ除ク）

十二、以上ノ外著シク粉塵ヲ飛散シ有臭、有害ノ瓦斯若ハ廢液ヲ發生シ又ハ此等ノ有害料品ヲ使用シ其ノ他甚シク騒聲、震動ヲ生スル虞アル工場

第二條 本則ニ依リ知事ニ差出スヘキ願届ハ總テ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第三條 未成年者、禁治產者ノ爲メ願届ニハ其ノ法定代理人ノ連署ヲ要ス

第四條 製造所(附屬建設物ヲモ含ム)ヲ建設セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ瓦、土管類製造工場、鍛冶工場ニ

在リテハ所轄警察官署ニ其ノ他ニ在リテハ知事ニ願出許可ヲ受クヘシ第三號乃至第五號、第七號第九號、第十號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一、住所、氏名、生年月、法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地、代表者ノ氏名

二、工場名

三、建設地ノ地名番號

四、敷地ノ坪數並略圖

五、建造物ノ坪數、構造仕様書並非常口、火竈、煙突其ノ他主要設備ノ位置等ヲ示セル圖面

六、四隣一丁以内ノ地形及建物等ノ距離ヲ見得ヘキ略圖

七、機械ノ種類及箇數

八、製造品ノ種類並職工男女別豫定人員

九、第一條第六號乃至第十二號ニ該當スル製造所ニ在リテハ藥品ノ製造若ハ使用工程(其ノ順序方法ヲ詳具スル)

其ノ貯藏取扱ノ場所並設備方法、貯藏數量ノ最大限及其ノ工程中除害ノ必要アルモノナルトキハ其ノ排除方法

十、工事落成期日

第五條 製造所ハ許可ヲ受ケタル官廳ノ検査ヲ受ケタルコト非サレハ使用スルコトヲ得ス

第六條 火藥、石油其ノ他爆發性ノ物品ヲ製造又ハ貯藏スル場所、社寺、學校、病院、官公署、公

園其ノ他公衆ノ集合スル場所ノ附近ニ於テハ製造所ノ建設ヲ許可セザルコトアルヘシ四圍ノ狀況

ニ依リ公衆ヲ生スル虞アリト認ムル場合亦同シ

第七條 當該官廳ハ危害豫防ノ爲若ハ公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ必要ナル施設ヲ命ジ又ハ

工場ノ全部若ハ一部ノ使用ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ

第八條 工事中ハ當該官廳又ハ所轄警察官署ノ指前ニ從ヒ時々検査ヲ受クヘシ

第九條 左ノ場合ニ於テハ七日以内ニ許可ヲ受ケタル官廳ニ届出ヅヘシ但シ死亡ノ場合ハ戶籍法上

ノ届出義務者、法人解散ノ場合ハ清算人ニ於テ其ノ手續ヲ爲スヘシ

一、第四條第一號、第二號、第八號ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキ

二、製造所ヲ繼承シ又ハ借受ケタルトキ

三、廢業シ又ハ三箇月以上休業シ又ハ復業シタルトキ

四、建設者(經營者ヲモ含ム以下同シ)死亡シ又ハ所在不明トナリタルトキ法人ニ在リテハ解散シタルトキ

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ許可ノ効力ヲ失フ

一、正當ノ事由ナクシテ六箇月以上休業シタルトキ

二、所在不明トナリ六箇月ヲ經過シタルトキ

第十一條 當該官吏ハ製造所及附屬建設物ニ臨檢スルコトアルヘシ當業者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條 第四條第五號ノ非常口並ニ寄宿舎ノ設備ニ付テハ左ノ各號ニ準據スヘシ

一、寢室ハ男女ヲ區別シ完全ナル區劃ヲ設クヘシ但シ夫婦同宿セシムルトキハ別棟ト爲スヘシ

二、職工ノ臥床ハ一人一床ナルヲ要ス

三、寢室ハ二人ニ付一坪半ノ割合ヲ降ルコトヲ得ス

四、寢室入口ニハ收容職工ノ氏ヲ掲示スヘシ

五、寢具ハ使用者ヲ一定シ交互使用セシメス常ニ清潔ヲ保チ上蒲團ノ類ニハ白布ヲ覆フヘシ但使用者ヲ變更セムトスル場合ハ洗濯ヲ爲スカ又ハ相當消毒ヲ行フヘシ

六、工場施設ハ規則第八條第二號乃至第五號ニ該當スル疾病者ノ使用シタル寢室、寢具、食器其他病毒汚染ノ虞アル物品ハ消毒ヲ爲スヘシ

七、工場及寄宿舎ニハ出入口ノ外容易ニ屋外ノ安全ナル場所ニ避難シ得ヘキ箇所ヲ選ビ左ノ標準ニ依リ層階毎ニ非常口又ハ避難裝置ヲ爲スヘシ

八、非常口ハ高サ内法五尺八寸以上幅員内法五尺以上ナルコト但平坪二十坪以下ノ建物ニ在リテ

九、非常口ノ幅員ハ内法三尺ニ減スルコトヲ得

十、非常口ノ扉ハ内部ヨリ容易ニ之ヲ開キ又ハ打破シ得ヘキ方法ニ依ルコト

十一、非常口ハ平坪五十坪以下ノ建物ニ在リテハ一箇所以上百坪以下ノ建物ニ在リテハ二箇所以上

十二、百坪ヲ超ユル建物ニ在リテハ其ノ室數間取等ヲ參酌シ適當ノ數ヲ増加配置スルコト但シ工場

十三、付テハ其ノ構造ニ依リ非常口ノ數ヲ減スルコトヲ得

十四、出入口、非常口ニ附屬スヘキ階段ハ踏面ハ七寸以上蹴上六寸以下斜面ハ傾斜角度三十度以内

十五、非常口ニハ適當ノ標示ヲ爲シ且平素職工其他ノ者ヲシテ其ノ利用方法ヲ習熟セシメ置クヘシ

第十六、本則第四條第五條、第八條、第九條、第十一條、第十二條ニ違反シ又ハ第七條ノ處分ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十四條 事業主ハ代理人、戸主家族、同居者、雇人其ノ他従業者ノ行爲ニ付テハ自己ノ指揮ニ出
テタル故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第十五條 未成年者又ハ禁治産者ニシテ本則ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ罰則ハ之ヲ其法定代理
人ニ適用ス但シ其ノ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
第十六條 法人ノ代表者其ノ他ノ従業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違反シタルトキハ其ノ罰則ヲ法人
ニ適用ス

法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

附 則

第十七條 本則ハ大正九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條 第一條各號ニ該當スル製造所中本則施行前ニ於テ許可ヲ受ケタルモノハ本則ニ依リ許可
及検査ヲ受ケタルモノト看做ス

許可ヲ受ケタル製造所ニシテ本則第十二條各號ノ設備標準ニ抵觸スルモノハ大正九年十二月三十
一日迄ニ第四條ニ準シ顯出ツヘシ

前二項ノ製造所ノ位置不適當ナルカ又ハ其ノ構造設備不完全ト認ムルモノハ第六條第七條ヲ適用
スルコトアルヘシ

○ 訓 令

○和歌山縣訓令第三三號

郡 役 所
 警 察 分 署
 市 役 所
 町 村 役 場

大正五年四月和歌山縣訓令第九號和歌山縣稅取扱手續中左ノ通改正ス

大正八年十一月四日

和歌山縣知事 大池田 松 時 和山 之 郎

一第二十六條中自轉車鑑札様式附記第十一號中「郡市ノ頭字」トアルヲ「郡市ノ頭字ノ冒頭ノ假名
 ノ一字」ト更ム

但日高郡ニ於テ使用セル檢印(日)ハ從前通トス

○ 告 示

○和歌山縣告示第三三四號

左記家畜市場ハ本年ニ限リ頭書ノ通開市期日ヲ追加ス

大正八年十一月四日

和歌山縣知事 池松時和

十一月十日、十一日、十二日

株式會社野上定期家畜市場

○和歌山縣告示第三三五號

左記自轉車鑑札紛失ノ旨届出ニ依リ自今無効トス

大正八年十一月四日

和歌山縣知事 池松時和

鑑札番號 紛失年月日

住 所 氏 名

第七六二四號 大正八年九月二十九日

伊都郡妙寺町大字下ノ町 田村德太郎

第七五六一號 大正八年十月二日

伊都郡妙寺町大字新田 井上由之助

○和歌山縣告示第三三六號

左記ノ通獸疫發生シタリ

大正八年十一月四日

和歌山縣知事 池松時和

番號 種類 病名 發病月日 轉歸月日 發生地

三 乳牛牝 炭疽 十月十七日 十月二十日斃死 海草郡野崎村

○和歌山縣告示第三三七號

左記ノ通り區劃漁業ヲ免許シ免許漁業原簿ニ登録ス

大正八年十一月四日

和歌山縣知事 池松時和

免許年月日	免許番號	漁業種類及名稱	漁場位置	漁獲物種類	漁業時期	漁業存續期間	條件又ハ制限	漁業權者
大正八年十一月一日	一九七〇	第二種漁業 養魚類養殖業	和歌山縣海草郡龜川村大字北原千八百一十一番地官有溜池通稱油谷池	鯉 鰻 鰺 鰻	自一月一日至十二月三十一日	貳拾箇年	養殖又ハ漁獲作業ノ爲メ灌漑及瀦水ヲ妨クヘカラス	和歌山縣海草郡龜川村大字多田千八百二十八番地 代表者 吉田庄治郎
同	一九七一	同	和歌山縣海草郡加太町大字加太字北丁千六百二十八番地官有溜池通稱才ノ池	鯉 鰻 鰺	同	同	養殖又ハ漁獲作業ノ爲メ池岸ヲ崩壞千四百八十番地セシムヘカラス	和歌山縣加太町大字加太 龍佐壽郎

○辭令

○大正八年十月三十日

和歌山縣雇 阪田兼一

御用濟解雇

會計吏員 木村種男
道尻虎楠
雇 道尻虎楠
御用濟解雇

知事官房秘書係勤務ヲ命ス

正木好一

和歌山縣伊都郡立橋本高等女學校

青子トミ子

願ニ依リ職務ヲ免ス

二五

吉田富達

五〇

森木伊之助

六八

松山淺吉

八〇

大西廣一

六〇

諏訪久吉

七五

岸田文一郎

七五

石橋爲三郎

七五

松本菊太郎

三五

堂本莊

五五

中谷熊之助

七〇

山名久之助

七〇

鹽崎善吉

六五

岩崎岩吉

六五

谷口兼次郎

八〇

寒川定吉

和歌山縣穀物検査所検査員ヲ囑託ス

年手當(頭書)圓ヲ給ス

○大正八年三十一日

七五

森本初三郎

六〇

小江幸三郎

三〇

前田安松

六八

小川兼助

二六

藤田善之助

六八

上芝健之助

七八

神崎熊楠

七八

喜多信太郎

七三

山中槌楠

七五

高松善之助

八〇

榎本長次郎

八〇

田村用助

蠶業取締所田邊支所勤務ヲ命ス 矢野忠義

蠶業取締所榎本支所勤務ヲ命ス 中野尻龜藏

○大正八年十一月一日

木村英修

第三回和歌山縣物產共進會書記ヲ命ス

日給壹圓貳拾錢ヲ給ス

臨時雇 藤田政次郎

和歌山縣雇ヲ命ス

月俸拾貳圓ヲ給ス

內務部會計課勤務ヲ命ス

堀 よね

臨時雇ヲ命ス

日給參拾錢ヲ給ス

知事官房文書係勤務ヲ命ス

技手 尾島久良

內務省へ出向ヲ命ス

衛生技手 尾島久良

願ニ依リ職務ヲ免ス

○大正八年十月二十七日

橘井三十郎

和歌山縣土木技手ヲ命ス

月俸五拾貳圓ヲ給ス

內務部土木課勤務ヲ命ス

和歌山縣粉河高等女學校教諭

高木久太郎

神奈川縣へ出向ヲ命ス

穀物検査員 宮田正一郎

(各) 同 土井甚一郎

願ニ依リ職務ヲ免ス

六拾圓 松本徳松

(各) 通 五拾七圓 新家萬次郎

(各) 五拾六圓 吉田豊太郎

五拾圓 吉田諄一郎

和歌山縣穀物検査所検査員ヲ命ス

年手當(頭書) 通 圓ヲ給ス

○大正八年十月二十八日

大阪府立富田林中學校教諭

小畑小三郎

和歌山縣立海草中學校教諭ニ任ス

四級俸ヲ給ス

○大正八年十月二十九日

伊都郡書記 松本敬夫

依願免本官

山本隆章

和歌山縣立新宮中學校武藝教師ヲ囑託ス
月手當參拾五圓ヲ給ス

○大正八年十月三十日

和歌山縣工業試驗場技手

小谷 守平

願ニ依リ職務ヲ免ス

日高高等女學校助教諭心得
兼舍監心得

草刈 フジ

願ニ依リ職務ヲ免ス

日高高等女學校教諭兼舍監

高田 テヲ

兼職ヲ免ス

日高高等女學校教諭

中西 レヲ

同校教諭

三河 龍尾

同校教諭

千原 レヅメ

和歌山縣立日高高等女學校舍監ニ兼任ス
月手當五圓ヲ給ス

○村吏員異動

○大正八年十月三十日認可

日高郡稻原村長

夏見 康太郎

同郡上山路村長

西面 欽一郎

○彙報

○昇任 和歌山縣有田郡藤並村田殿村御靈村學校組合立吉備實業學校教諭兼和歌山縣有田郡藤並村田殿村御靈村學校組合立吉備實業學校附設技藝補習學校訓導宮芝貞橘ハ十月六日公立實業學校教諭(高等官八等特選)ニ任セラレ同日和歌山縣有田郡藤並村田殿村御靈村學校組合立吉備實業學校教諭ニ補セラレ十一級俸下賜セラル

○休職満期 和歌山縣土木工手奥田宗夫ハ九月廿六日休職満期トナレリ

○附帶事務任命 和歌山縣理事官藤岡長和ハ十月廿七日視學官ニ補セラレ府縣制第六十五條第三項ニ依リ和歌山縣參事會會員、市制第七十條第二項ニ依リ和歌山縣市吏員懲戒審査會會員、町村制第一百五十條第二項ニ依リ和歌山縣町村吏員懲戒審査會會員ヲ命セラル

大正八年十一月四日印刷
大正八年十月四日發行
每冊六圓日發行

一ヶ月定
價郵稅共

發行人 谷 治郎
和歌山市東長町五丁目

印刷人

和歌山市四番丁
和歌山市四番丁壹番地